

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
WW21A004	社会福祉の基礎(入門科目)(Introductory Class of Social work and Social Policy)											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1年次に履修することが望ましい	福祉社会科学 研究科	前期	木6	氏名 中山 慎吾 E-mail 内線						
授業の概要	この講義は、地域共生社会を実現する上での課題を念頭に置きつつ、現状における社会福祉の原理と実際を把握することを目的として展開している。そのことを通じて、地域共生社会のイメージを明確にするとともに、社会福祉のミクロレベル、メゾレベル、マクロレベルの課題を理解し、自分なりに説明できることをねらいとしている。特に高齢者、障害者、児童といった対象別の理解だけでなく、包括的な支援の必要性を理解することを目指す。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	社会福祉の支援についての研究的視点や方法について理解し説明することができる。											
目標2	地域の社会福祉問題の多様性と共通点を理解し説明できるようになる。											
目標3	社会福祉の諸制度を理解し、その課題について研究的な観点から説明できるようになる。											
目標4	ミクロレベル、メゾレベル、マクロレベルからエビデンスに基づいた包括的な支援のあり方について理解し説明できる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	イントロダクション(社会福祉の理念、歴史、制度と法体系、学説等の観点から体系的に学ぶことについての概説)											
2	社会福祉の定義 社会的排除と社会的包摂											
3	社会福祉の定義 共生の理念と社会福祉											
4	日本の社会福祉の歴史											
5	海外の社会福祉の歴史											
6	社会福祉の理論(1) 社会政策と社会福祉の関連											
7	社会福祉の理論(2) 個人の主体性と社会福祉、特に岡村理論に注目して											
8	社会福祉の理論(3) 社会福祉とそれを向上させる運動、一番ヶ瀬理論、真田理論に注目して											
9	社会福祉の理論(4) 社会福祉の運営をめぐる理論、特に三浦理論の意義に注目して											
10	共生社会を実現する上での諸問題(1): マイノリティと社会福祉											
11	共生社会を実現する上での諸問題(2): 制度の狭間をどう考えるか											
12	共生社会を実現する上での諸課題(3): スティグマと社会福祉											
13	共生社会を実現する上での諸課題(4): 社会福祉と地域格差											
14	社会福祉と諸条約											
15	今後の社会福祉の展望											
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回の授業の最後の数分間において、授業内容を振り返りまとめと感想を記録。グループワークでの共同作業。			工 夫 そ の 他 の	講義に関連する新聞記事等を積極的に紹介し、受講生の意見を報告してもらう。						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	参考書や配付資料、社会福祉に関する新聞記事等をもとに予習する(8時間)。										
	事後学修	参考書や配付資料、社会福祉に関する新聞記事等をもとに復習する(8時間)。レポート等の課題に取り組む(15時間)。										
教科書	平岡公一、杉野昭博、所道彦、鎮目真人『社会福祉学』有斐閣(2011年) 講義中に資料を配布する。											
参考書	講義中に紹介する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業への積極的な参加	30%										
	最終レポート	70%										
		合計得点60点を単位取得の条件とする。										
注意事項	特になし											
備考	授業の内容等は進行状況に応じて若干の変更があります。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
WW22L006		社会保障政策特論(Social Security)					マクロ領域														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	後期	火6	氏名 松本由美 E-mail matsumoto-yumi@oita-u.ac.jp 内線 6097															
授業の概要	今日、すべての人が安心して生活を営んでいく上で社会保障の役割はますます重要なものとなっている。一方で、少子高齢化の進展や社会経済状況の変化を背景として、社会保障はさまざまな問題に直面している。この授業では、社会保障の現状と課題を理解するとともに、今後の社会保障政策のあり方を考える。																				
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 社会保障制度の現状を理解する。																					
目標2 社会経済状況の変化を踏まえ、政策課題を多面的に把握する。																					
目標3 今後の社会保障政策のあり方について、自らの考えを持つ。																					
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 授業の進め方等についてのガイダンス																					
2 医療保障制度の現状と課題																					
3 医療保障制度の現状と課題																					
4 医療保障制度の現状と課題																					
5 介護保険制度の現状と課題																					
6 医療・介護政策のあり方																					
7 年金制度の現状と課題																					
8 年金制度の現状と課題																					
9 年金制度の現状と課題																					
10 年金制度の現状と課題																					
11 年金制度のあり方																					
12 社会保障政策のあり方																					
13 社会保障政策のあり方																					
14 社会保障政策のあり方																					
15 まとめ																					
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	報告やディスカッションを通じて、社会保障に関する知識や理解を深める。					工夫 その 他の														
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 学修	各テーマに関する報告を割り当てるので、報告者はテキストの該当部分の概要を作成するとともに、自分の見解を示すことができるよう準備を行うこと。その他の参加者もテキストを熟読し、自分の見解と疑問点をまとめておくこと(30h)。																			
	事後 学修	毎回の授業後は、報告やディスカッションを踏まえて自らの理解を確認し、必要に応じて追加的な学習を行い、知識を体系的に整理しておくこと(15h)。																			
教科書	授業の中で適宜指定する。																				
参考書	土田武史編著『社会保障論』成文堂、2015年 池上直己『日本の医療と介護 歴史と構造、そして改革の方向性』日本経済新聞出版社、2017年 駒村康平『日本の年金』岩波新書、2014年																				
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10									
	授業への参加の積極度	50%																			
	報告内容	50%																			
注意事項																					
備考																					
リンク	URL																				

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
WW22L007	福祉法制・権利擁護特論(Welfare Legal System and Advocacy)					マクロ領域						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2		福祉社会科学 研究科	前期	月6	氏名 藤村賢訓  E-mail masa-f@oita-u.ac.jp 内線 7703						
授業の概要	社会福祉基礎構造改革は、社会保障・社会福祉法制の基盤思想に大きな変化をもたらした。すなわち措置から契約への大きな流れにしたがい、各人に広く自己決定可能な機会を提供する一方、結果としての自己責任主義が強調されてきている。本演習では、福祉に関する個別紛争事例を題材に、その裁判の裏に潜む制度的課題を検討し、福祉法制全体の現状と課題を考えたい。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	福祉政策・法制度の全体的な動向について理解する。											
目標2	個別紛争事例を通じて、何が問題となるかを理解する。											
目標3	問題解決のための課題・方向性について考える。											
目標4	権利擁護とは何かについて自分なりの考えを構築する。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	福祉法制と紛争処理手続概要(講義)											
2	福祉法制と紛争処理手続概要(講義)											
3	社会福祉法制											
4	社会福祉法制											
5	生活保護法制											
6	生活保護法制											
7	児童福祉法制											
8	老人福祉法制											
9	障害福祉法制											
10	年金法制											
11	年金法制											
12	成年後見法制											
13	成年後見法制											
14	被爆者援護法制											
15	医事法制											
ラーニング	A:知識の定着・確認					工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修											
	事後学修											
教科書	資料・判例を配布します。また講義中に適宜紹介します。											
参考書	適宜紹介します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	100%										
注意事項	報告者のみならず、参加者は事前に検討判例を読み、考えをまとめておくよう心掛けてください。本演習は積極的に議論を行います。											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
WW22L009	雇用政策・福祉労働特論(雇用政策・福祉労働特論)					マクロ領域										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	後期	金5	氏名 石井まこと  E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698										
授業の概要	社会政策が取り扱う雇用・労働問題および生活・社会保障に関する良質な研究論文を通じて、政策検討・検証能力を錬磨していく。															
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	福祉社会と雇用・労働・生活の関係について理解が深まる。															
目標2	通説に流されない批判的分析力を構築できる。															
目標3	よりよい福祉社会を構想できる力がつく。															
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	ガイダンス															
2	子どもの貧困対策															
3	新自由主義と反貧困															
4	女性の貧困と子どもの貧困															
5	イギリスの貧困対策															
6	日本型福祉社会と貧困															
7	貧困把握															
8	子育て家計															
9	ドメスティックバイオレンスと子ども															
10	貧困と若年女性															
11	若年女性と性的サービス労働															
12	若年女性にみるジェンダー観															
13	障害者ケアと女性の貧困															
14	子ども・家族・労働と社会保障															
15	総括															
ラーニング	A:知識の定着・確認	受講者と議論を行い、著書の批判的検討により、論点を深めていく。				工夫	その他の									
	B:意見の表現・交換															
	C:応用志向															
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	講義時に指示する。														
	事後学修	講義時に指示する。														
教科書	受講者と相談の上、決定する。															
参考書	石井まこと・宮本みち子・阿部誠編(2017)『地方に生きる若者たち-インタビューからみえてくる仕事・結婚・暮らしの未来』旬報社。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	授業時の発言・報告状況	50%														
	期末レポート	50%														
注意事項	上記15回のシラバスはモデル案であり、受講者と相談の上、内容を調整する。															
備考	質問は直接研究室(経済学部4階)もしくはメール(mak@oita-u.ac.jp)で随時受付。															
リンク	URL															

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
WW22L010	人権の歴史特論(The History of Human Rights)					マクロ領域						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1・2	福祉社会科学 研究科	後期	水6	氏名 八木 直樹  E-mail n-yagi@oita-u.ac.jp 内線 7976						
授業の概要	「人権」とは、人が生まれながらにして持っている権利であり、福祉に関わる者にとっては絶えず意識しなければならない重要な問題です。しかし、「人権」とは何なのかは、決して自明のことではありません。本授業では、「人権の歴史」に関わる様々な文献を輪読することにより、「人権」とは何なのか、について受講生とともに考えていきます。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	文献を精読し、内容を要約し論点を整理することができる。											
目標2	過去の社会と現代社会における「人権」の持つ意味の相違点について説明することができる。											
目標3	時代を問わず変化しない「人権」について、自分の考えを他者に説明することができる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	子どもに関する論文の輪読とその議論 1											
3	子どもに関する論文の輪読とその議論 2											
4	老人観に関する論文の輪読とその議論 1											
5	老人観に関する論文の輪読とその議論 2											
6	家族に関する論文の輪読とその議論 1											
7	家族に関する論文の輪読とその議論 2											
8	孤児・捨て子に関する論文の輪読とその議論 1											
9	孤児・捨て子に関する論文の輪読とその議論 2											
10	「いのち」に関する論文の輪読とその議論 1											
11	「いのち」に関する論文の輪読とその議論 2											
12	「いのち」に関する論文の輪読とその議論 3											
13	「死」に関する論文の輪読とその議論 1											
14	「死」に関する論文の輪読とその議論 2											
15	「死」に関する論文の輪読とその議論 3											
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	・毎回、受講生全員が輪読する論文内容を報告した上で、ディスカッションを行います。			工 夫 そ の 他 の	なし。						
時間外 学習の 内容と 時間の 目安	準備 学修	輪読する文献を精読した上で、入念な報告の準備をしてください(30h)。										
	事後 学修	ディスカッションの論点を各自で整理し、「人権」について考えてください(10h)。										
教科書	使用しません。輪読する文献のコピーを配布します。											
参考書	講義中に適宜紹介します。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	報告内容と議論への参加状況	100%										
注意事項	遅刻・欠席をする場合は、授業が始まるまでに必ず連絡して下さい。											
備考	受講人数によっては、講義の進め方を変更する場合があります。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
WW22L010		人権の歴史特論(The History of Human Rights)					福祉社会政策分野										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択必修	2	1・2	福祉社会科学 研究科	後期	水6	氏名 八木 直樹 E-mail n-yagi@oita-u.ac.jp 内線 7976											
授業の概要	「人権」とは、人が生まれながらにして持っている権利であり、福祉に関わる者にとっては絶えず意識しなければならない重要な問題です。しかし、「人権」とは何なのかは、決して自明のことではありません。本授業では、「人権の歴史」に関わる様々な文献を輪読することにより、「人権」とは何なのか、について受講生とともに考えていきます。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 文献を精読し、内容を要約し論点を整理することができる。																	
目標2 過去の社会と現代社会における「人権」の持つ意味の相違点について説明することができる。																	
目標3 時代を問わず変化しない「人権」について、自分の考えを他者に説明することができる。																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	子どもに関する論文の輪読とその議論 1																
3	子どもに関する論文の輪読とその議論 2																
4	老人観に関する論文の輪読とその議論 1																
5	老人観に関する論文の輪読とその議論 2																
6	家族に関する論文の輪読とその議論 1																
7	家族に関する論文の輪読とその議論 2																
8	孤児・捨て子に関する論文の輪読とその議論 1																
9	孤児・捨て子に関する論文の輪読とその議論 2																
10	「いのち」に関する論文の輪読とその議論 1																
11	「いのち」に関する論文の輪読とその議論 2																
12	「いのち」に関する論文の輪読とその議論 3																
13	「死」に関する論文の輪読とその議論 1																
14	「死」に関する論文の輪読とその議論 2																
15	「死」に関する論文の輪読とその議論 3																
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	・毎回、受講生全員が輪読する論文内容を報告した上で、ディスカッションを行います。														工 夫 そ の 他 の	なし。
時間外 学修 の内容と 時間 の目安	準備 学修	輪読する文献を精読した上で、入念な報告の準備をしてください(30h)。															
	事後 学修	ディスカッションの論点を各自で整理し、「人権」について考えてください(10h)。															
教科書	使用しません。輪読する文献のコピーを配布します。																
参考書	講義中に適宜紹介します。																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10					
	報告内容と議論への参加状況	100%															
注意事項	遅刻・欠席をする場合は、授業が始まるまでに必ず連絡して下さい。																
備考	受講人数によっては、講義の進め方を変更する場合があります。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
WW22L011	生と死の哲学特論(Philosophy of Life and Death)					マクロ領域						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	前期	金5	氏名 黒川 勲 E-mail kurokawa-isa@oita-u.ac.jp 内線 7525						
授業の概要	現代日本社会にとって社会福祉のウエイトは次第に大きくなりつつあります。社会福祉を考察するには、福祉の概念、社会福祉の現状、患者・家族・社会・社会福祉従事者及び医療従事者の相互関係、生命の尊厳、生命倫理等、多くの検討すべき側面・課題があると考えられます。本授業では、こうした課題を人間の「生と死」の観点から根本的に捉えることを契機とし、「人格性」、「生と死」と福祉の関係を追究することを核として、解決への方法を考察します。その際、生命倫理学の視座を射程に入れて論ずるとともに、内外の文献の精査を行い、考察することで専門的知識とともに高度な研究能力を養成します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	各主題を「生と死」の人間における全体的観点から見直すとともに、専門的知識を習得する。											
目標2	各主題を根源的・現象的観点の往還による、哲学的・倫理的視点から考察することができる。											
目標3	各主題について多角的な視点から考察し、論理的に表現できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	生命倫理の課題(生に関する課題)											
2	生命倫理と倫理理論(義務論)											
3	生命倫理と倫理理論(功利主義・徳倫理)											
4	生命の尊厳の根本的基盤-人格と自律											
5	自己決定の条件、自己決定の限界											
6	インフォームド・コンセント											
7	生殖技術-生殖技術と倫理問題											
8	医療従事者・患者関係											
9	生命倫理の課題(死に関する課題)											
10	安楽死・尊厳死											
11	終末期医療											
12	遺伝子技術											
13	遺伝子技術-優生学的問											
14	移植医療-脳死と移植医療											
15	「自由」・「人格」の概念再考											
ラ ア ー ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	本授業は基礎資料を基にした学生による発表と議論を中心に進めます。また議論の際、教員が一方向的に話すだけにならないように、学生に意見を述べてもらう場を頻りに設けます。			工 夫 そ の 他 の							
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	本授業は基礎資料を基にした学生による発表と議論を中心に進めます。各自の報告資料の作成のために、文献調査・分析・資料作成を行って下さい。(15h)										
	事後学修	各自及び他の学生の報告への積極的な参加とともに、事後に各自の関心のあるテーマに関連づけた発展的な取り組みを行って下さい。(15h)										
教科書	テキストは受講者の関心を参考にして決定します。											
参考書	参考文献については適宜、授業内において示します。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	報告資料の作成	40%										
	報告の実施	30%										
	議論への参加	30%										
注意事項	特になし											
備考	特になし											
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
WW22M013	福祉公共ガバナンス特論(Public Governance in Welfare Society)					メゾ領域						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2		福祉社会科学 研究科	前期	金7	氏名 高島拓哉 E-mail tataka@oita-u.ac.jp 内線 7678						
授業の概要	自治体公共政策および民間セクターとのパブリック・ガバナンスを視野に、ニュー・パブリック・マネジメント(NPM)をふまえた社会福祉供給システムの改革論、ニーズの適切な把握、サービス評価など、政策面での諸課題をめぐる基礎理論的な解説を行います。特に、行政評価、サービス評価などに焦点を当てます。関連して自治体合併やインフラ整備問題に言及します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	プログラム評価の基本的な概念であるインプット、アウトプット、アウトカム、インパクト、効率、効果などとそれらの相互関											
目標2	社会福祉基礎構造改革の制度的背景や政策的論点について説明できる。											
目標3	福祉の視点から住民参加の功罪を説明できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	パブリック・ガバナンスとNPM(1)「小さな政府」とその時代背景											
2	パブリック・ガバナンスとNPM(2) 企業の行政運営手法の理念と概要											
3	パブリック・ガバナンスとNPM(3) 評価にもとづく運営											
4	パブリック・ガバナンスとNPM(4) サービスの質、コスト、効率											
5	保育サービス評価の指標											
6	「ある地域医療の挫折」											
7	社会福祉基礎構造改革を考える(1)											
8	社会福祉基礎構造改革を考える(2)											
9	社会問題の構造的理解と社会福祉ニーズ											
10	軽度障害の「中途半端」なつらさを考える: ニーズ把握の盲点を衝く											
11	障害児の性教育とジェンダーフリー											
12	社会問題の構造的背景と自己責任論											
13	社会福祉とごみ問題とアンペイドワーク											
14	バリアフリー・ユニバーサルデザインをめぐる争点											
15	平成合併の構図とナショナル・ミニマム											
ラーニング	A:知識の定着・確認					工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修											
	事後 学修											
教科書	毎回、資料を配布します。											
参考書	碓井敏正・大西広編『成長国家から成熟社会へ』花伝社、2014・秋元美世『社会福祉の利用者と人権』有斐閣、2010・秋元美世『福祉政策と権利保障』法律文化社、2007・大野勇夫・川上昌子・高橋玖美子編『社会福祉のアセスメント』中央法規出版、1997・大野勇夫『利用者のためのケアマネジメント』あけび書房、2000・近藤克則『改訂版医療・福祉マネジメント』ミネルヴァ書房、2012・本間照光『保険制度からみた『公的介護保険』創設の問題点(上・下)』『賃金と											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	最終レポート	100%										
注意事項	公共ガバナンスやNPMは体系的な学説ではなく、多様な視点からの、かつ論争的な議論を暫定的に総括したにすぎません。講師の話も「正解」ではなく一つの解釈に過ぎないことに注意してください。むしろ講義を参考に自分なりの答を探してほしいと思います。											
備考	毎回の講義の最後に質疑の時間をとりますが、それ以外にも質問・相談などがある方は、いつでも研究室にどうぞ。携帯やPCのメールによる質問なども可です。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
WW22M015		地域福祉政策特論()					メゾ領域													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	前期	水6	氏名 川村 岳人 E-mail 内線														
授業の概要	近年、経済構造の変化によって社会的な課題を解決する「空間的単位」が小さくなり、社会的孤立や社会的排除など福祉問題の多くが地域ごとにローカルに読み解く必要が高まっています。この授業のねらいは、こうした地域で生じている福祉問題を構造的に理解するとともに、複合的なニーズを抱える人々を地域でいかに支援していくか、また、そうした人々を支えるためには地域にどのように働きかけているのかを考えることです。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	地域福祉の対象として、地域住民の抱える生活問題やその背景・構造を把握するとともに、課題意識を養う。																			
目標2	複合的なニーズを抱える人や世帯が抱えている課題を、実証的に把握し理解し、支援体制を構築するための方策を理解する。																			
目標3	個別課題から地域課題を抽出するとともに、その解決に向けた地域支援の具体的な方策を理解する。																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	現代社会と地域福祉（既存の制度による解決が困難な課題への対応）																			
2	地域福祉の理念と地域共生社会																			
3	地域福祉の理論																			
4	地域福祉の主体 地域福祉の主体認識																			
5	地域福祉の主体 公的機関（地域を基盤とする包括的支援体制の構築）																			
6	地域福祉の主体 地域住民（住民相互の支え合い機能の強化、公的支援との協働）																			
7	地域福祉の制度・政策																			
8	地域共生社会の実現に向けた諸問題 課題の複合化、制度の狭間																			
9	地域共生社会の実現に向けた諸問題 社会的孤立																			
10	地域共生社会の実現に向けた諸問題 社会的排除・空間的排除																			
11	地域ニーズの把握 量的調査																			
12	地域ニーズの把握 質的調査																			
13	地域福祉の援助技術 コミュニティワーク																			
14	地域福祉の援助技術 コミュニティソーシャルワーク																			
15	地域共生社会の実現に向けた地域福祉実践理論の展望																			
ラ ー ク ニ テ ィ グ ル ー プ	A:知識の定着・確認	担当教員が論題を提供し、グループディスカッション形式で授業を行う。									工 夫 そ の 他 の									
	B:意見の表現・交換	。																		
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	講義内容に関連する文献や論文などを用いて理解を深め、集団討議に参加する準備をしておいてください。																		
	事後学修	講義内容に関連する文献や論文などを用いて理解を深め、集団討議に参加する準備をしておいてください。																		
教科書	川島ゆり子・永田祐・榊原美樹・川本健太郎（2017）『地域福祉論』ミネルヴァ書房。																			
参考書																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	講義（特にグループディスカッション）での貢献度	100%																		
注意事項	授業のなかでグループディスカッションの時間を設けます。グループディスカッションの内容や受講者の理解度等に応じてシラバスの内容は順番が変わったり、一部が変更となったりする場合があります。																			
備考	特になし																			
リンク																				
	URL																			

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
WW22M017	市民参加と福祉社会特論(Acitive Citizen and Welfare society)					メゾ領域						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2		福祉社会科学 研究科	前期	月6	氏名 豊島 慎一郎 E-mail stoy@oita-u.ac.jp 内線						
授業の概要	本講義は、現代日本におけるNPO/ボランティア等の市民参加(社会参加)に関する社会学的研究を踏まえて、政策・実践的観点からこれからの福祉社会の構築について議論する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	市民参加に関する社会学的研究に対する理解を深める。											
目標2	市民参加に関する政策提言に貢献できる応用力を修得する。											
目標3	報告および議論を通して理解を深める。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション											
2	受講生の研究テーマに関する報告											
3	報告および議論1											
4	報告および議論2											
5	報告および議論3											
6	報告および議論4											
7	報告および議論5											
8	報告および議論6											
9	報告および議論7											
10	報告および議論8											
11	報告および議論9											
12	報告および議論10											
13	報告および議論11											
14	報告および議論12											
15	期末レポートに関する報告および提出											
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	受講生は毎回、指導教員が指示した文献について要約および内容に関するコメントを報告し(要レジュメ)、それを基に議論を行う。			工 夫 そ の 他 の							
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修											
教科書	なし。											
参考書	適宜指示する。											
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	報告および議論	50%										
	期末レポート	50%										
注意事項	社会学の基礎を修得している者の受講が望ましい。 本講義の内容について、修士論文のテーマと関連する者の受講が望ましい。											
備考												
リンク												
	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
WW22M018	非営利組織のマーケティング特論(Marketing for Nonprofit Organizations)					メゾ領域						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1, 2	福祉社会科学 研究科	後期	月6	氏名 松隈久昭(経済)  E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680						
授業の概要	少子高齢化社会では、高齢者、障害者を含めた生活者のニーズを分析し、効果的に福祉、医療、保健サービスを提供することが必要である。講義では、そのような生活者のニーズを分析し、生活者満足度を高める方法を検討する。また、福祉施設や病院等の非営利組織のマーケティングを説明する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	非営利組織のマーケティングについて理解すること。											
目標2	また、非営利組織の利用者満足の分析ができるようにすること。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	非営利組織とマーケティングの定義											
2	生活者のニーズと満足度の分析											
3	生活者のニーズと満足度の分析											
4	非営利組織の経営方法											
5	非営利組織の経営方法											
6	サービス・マーケティング											
7	サービス・マーケティング											
8	サービス・マーケティング											
9	価格設定のマーケティング											
10	価格設定のマーケティング											
11	広報・広告の方法											
12	広報・広告の方法											
13	ソーシャル・マーケティング											
14	事例研究											
15	事例研究											
ラーニング	A:知識の定着・確認	レポートによる。			工夫 その 他の	近年の事例研究も紹介する。						
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修											
	事後 学修											
教科書	未定。											
参考書	授業時に指定する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	100%										
注意事項	受講する前に、必ずガイダンスに参加すること。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
WW22M019		マネジメント特論(Management Theory)					メゾ領域													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択必修	2		福祉社会科学 研究科	前期	火6	氏名 本谷 るり E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707														
授業の概要	複数の人々が集まり、共通の目標を達成しようとするとき、そこに組織が成立します。それは企業のみならず、あらゆる組織において同様です。組織を成立させ存続させていくために必要なメカニズムを理解し、組織の抱える課題について議論できるようになることがねらいです。																			
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 企業組織のしくみやマネジメントに関わる知識を身につける																				
目標2 実際のマネジメントについて論理的に分析できる																				
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 ガイダンス																				
2 組織とは(1)組織の本質、機能																				
3 組織とは(2)組織のとらえ方																				
4 組織とは(3)企業の組織																				
5 組織を分析する枠組み(1)古典的組織論																				
6 組織を分析する枠組み(2)現代的組織論																				
7 組織を分析する枠組み(3)最近の議論																				
8 組織の構造(1)																				
9 組織の構造(2)																				
10 組織のデザイン																				
11 組織と人との関わり(1)モチベーション																				
12 組織と人との関わり(2)リーダーシップ																				
13 組織文化、経営理念																				
14 組織と環境との関わり(1)ガバナンス、CSR																				
15 組織と環境との関わり(2)戦略																				
ラ ア イ ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					講義は、前半と後半に分けて行います。前半は知識や理論の確認です。後半はそれに関わる議論をみなで行います。議論には準備学習が必要ですので、予習の上授業に臨んでください。					工 夫	そ の 他 の								
時間外学修の内容と時間の目安	準備 講義予定の章や論文についてあらかじめ読み、不明な箇所やポイントなどをまとめておいてください。 学修 30分程度 事後 講義内容や全員での議論を踏まえて、興味のある企業や専門性の高い理論について調べたり参考文献を読んだりしましょう。 学修 30分程度																			
教科書	講義開始時に示します。																			
参考書	参考文献は該当する講義時に提示します。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	期末レポート	100%																		
注意事項																				
備考																				
リンク																				
	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
WW22H026		児童・家庭ソーシャルワーク特論()					ミクロ領域													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択必修	2	1,2	福祉社会科学 研究科	前期	火6	氏名 相澤 仁 E-mail 内線														
授業の概要	近年、家族や地域状況の変化により、子どもの権利に基づいた「子どもの育ち」を保障することが困難となってきた。本授業は児童福祉全般の共通基盤とも言える子どもの権利保障を柱に、実践に必要な子ども観、子育て観、家族観などについて当事者の声や事例などを紹介しながら、児童虐待やDV、ひとり親家庭など近年家庭内の福祉需要が多様化する中で、どのような権利擁護観をもって子どもや、その家族にかかわっていくのかについて考えることを目的とする。また、児童福祉に関連する法律、児童福祉関連機関、子育て支援・保育サービスなどに関する児童福祉サービスを展開する上で必要な基本的知識の学習と実践について学ぶ。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	児童家庭福祉の理念、制度施策、実践のあり方など、実践に必要な基本的かつ包括的な内容や視点について理解し説明できる。																			
目標2	児童家庭福祉実践に必要な技術や倫理について理解し説明できる。																			
目標3	子どもや保護者等のニーズに対応する社会資源について理解し説明できる。																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	児童家庭福祉の理念																			
2	子どもの発達成長																			
3	子どもの権利擁護と児童家庭福祉																			
4	児童家庭福祉の歴史・制度と実施体制																			
5	児童家庭福祉施設等と専門職																			
6	少子化と子育て支援サービス																			
7	保育サービス																			
8	母子保健と健全育成																			
9	児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス																			
10	子どもの貧困対策																			
11	社会的養護																			
12	障害児支援																			
13	少年非行等への対応																			
14	ひとり親家庭等の家庭支援																			
15	まとめ																			
ラーニング ポイント ニ ン イ ゲ ブ	A:知識の定着・確認	グループディスカッション				工 夫 そ の 他 の	アイスブレイク													
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する。																		
	事後 学修	配布資料や講義内容について復習する。																		
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。																			
参考書	網野武博「児童福祉学」中央法規 2002年 柏女雲峰「子ども家庭福祉論第2版」誠信書房 2011年 新保幸男 小林理「児童家庭福祉」中央法規 2016年																			
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10								
	中間課題レポート	30%																		
	最終課題レポート	70%																		
注意事項	なし																			
備考	なし 【地域創生教育科目】																			
リンク																				
	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	児童自立支援専門員
実務経験を いかした教 育内容	社会的擁護のもとで生活している子どもに対する理解と対応のしかたについての講義を行う。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
WW22H028	精神保健ソーシャルワーク特論(Psychiatric Social Work)					ミクロ領域						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択必修	2	1、2	福祉社会科学 研究科	後期	月7	氏名 橋本美枝子  E-mail hmieko@oita-u.ac.jp 内線 7604						
授業の概要	ソーシャルワークの援助対象には、みずから助けを求めない人、解決への意欲が低い人は珍しくない。とりわけ、アルコール依存など嗜癖問題をもつ人の場合、周囲や援助者からも「困難」「厄介」「絶望的」と否定的に見なされ、ますます力を奪われがちである。本授業では、アルコール問題を例としながら、対象者が動機づけを高めることを助ける「動機づけ面接法」を中心に援助のあり方について考察する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	アルコール依存症を含む嗜癖問題に関する基本的な知識の修得											
目標2	アルコール問題への介入方法に関する批判的検討を通して、クライアントの動機づけを高める意義について考察を深める。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	アルコール依存症(嗜癖)に関する知識の共有 1. アルコール依存症とは何か											
2	2. 本人への影響											
3	3. 家族への影響											
4	アルコール依存症への介入方法の検討 1) コンフロンテーションによる介入1											
5	2) コンフロンテーションによる介入2											
6	Motivational Interview(動機づけ面接法) 1) 変化とは何か											
7	2) 変化の要素											
8	3) 変化へのアンビバレンス(両価性)											
9	4) 変化の促進											
10	5) 動機づけ面接法(Motivational Interviewing)とは											
11	6) 変化と抵抗											
12	7) 変化への動機の構築											
13	8) チェンジ・トークへの応答											
14	9) 抵抗への応答											
15	10) 自信を深める 総括											
ラーニング ポイント	A:知識の定着・確認					工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習 の内容と時間 の目安	準備 学修											
	事後 学修											
教科書	ウィリアム・R.ミラー、ステファン・ロールニック『動機づけ面接法(基礎・実践編)』, 星和書店											
参考書	I・K・バーグ, N・H・ロイス『解決へのステップ: アルコール・薬物乱用治療へのソリューション・フォーカスト・セラピー』, 金剛出版.											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	課題への取り組み、報告・議論への参加態度、レポートなどを中心に総合的に評価	100%										
注意事項	本講義で取り上げる「動機づけ面接法」は、アルコール依存症を事例とするが、服薬やカロリー制限など自己管理が必要な精神疾患や生活習慣病を抱えている人への援助にも有効である。精神保健に関する基礎知識を備えていなくとも、理解可能な内容となるように工夫している。											
備考	なし											
リンク												
	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
W22H029		医療ソーシャルワーク特論(医療ソーシャルワーク特論)					ミクロ領域													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択	2	1,2	福祉社会科学 研究科	後期	木6	氏名 上白木 悦子 E-mail 内線														
授業の概要	保健医療や医療ソーシャルワークにおける基本原則・理論や研究課題を理解する。 年度ごとに設定するテーマに基づき、文献概要のレジュメや事例等に基づいた報告と討論を中心に講義を展開する。																			
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)									
目標1 保健医療や医療ソーシャルワークにおける基本原則・理論や研究課題を理解し、説明する。											1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2 自己の価値観を大切にしつつ、価値観が異なる他者と対話できる視点を養い、実践する。																				
目標3																				
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 オリエンテーション/本年度テーマ(医療方針の決定に関わるソーシャルワーカーの調整・支援)に基づいた文献リストを配布し、抄読のスケジュールを決める。																				
2 本年度テーマに関連する視聴覚教材(A氏の緩和ケア・終末期医療における意思決定を通して1)に基づき、出席者全員で討論を行う。																				
3 本年度テーマに関連する視聴覚教材(A氏の緩和ケア・終末期医療における意思決定を通して2)に基づき、出席者全員で討論を行う。																				
4 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(医療ソーシャルワーカーの業務継続に関する文献)																				
5 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(ソーシャルワーカーの役割に関する意識に関する文献)																				
6 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(救命救急センターにおける医療ソーシャルワーカーの役割に関する文献)																				
7 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(特定機能病院における医療ソーシャルワーカーの役割に関する文献)																				
8 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(医療ソーシャルワーカーの自己イメージに関する文献)																				
9 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(認知症当事者の思いに関する研究に関する文献)																				
10 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(英語文献を予定)																				
11 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(英語文献を予定)																				
12 報告担当者による文献概要のレジュメをもとに、出席者全員で討論を行う。(英語文献を予定)																				
13 事例に基づき、出席者全員で討論を行う。(地域包括ケアシステムにおける医療ソーシャルワーカーの役割に関する事例)																				
14 事例に基づき、出席者全員で討論を行う。(地域包括ケアシステムにおける医療ソーシャルワーカーの役割に関する事例)																				
15 まとめ																				
ラ ッ ク ニ テ ィ グ レ ー プ	A:知識の定着・確認	時間外学修 発表、討論				工 夫 そ の 他 の														
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	テーマに関連する文献(英語論文を含む)をできるだけ多く読み、文献概要のレジュメを作成してください。またメディア等を通じて保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に目を向けてみてください。(15h)																		
	事後学修	講義を通じて得た学びを振り返り、またメディア等を通じて関連する保健・医療をめぐる日本また世界の現状と課題に関心を寄せてください。(15h)																		
教科書	教科書は指定しない。																			
参考書	1. 社会福祉士養成講座編集委員会編. 保健医療サービス. 中央法規, 最新年. 2. 岩淵豊. 日本の医療. 中央法規, 2015. 3. 財団法人 厚生統計協会. 国民衛生の動向, 最新年.																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	システマティック レビューを踏まえたレジュメを作成することができる。	25%																		
	クリティカル シンキングおよび論理的思考を踏まえた解釈をすることができる。	25%																		
	レジュメに基づいた報告及び互いの報告について討論を行う。	25%																		
	健康福祉の実践の場における諸課題に対応するための基礎力を身につけることができる	25%																		
注意事項	医療ソーシャルワークの諸課題について、自らの関心に引き寄せて考えていただければと思います。 講義内容と実践の場の現状を比較し、各自、実務のあり方を検討してください。																			
備考																				
リンク	URL																			

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)													
WW23A033		自治体福祉行政の現在(Social Service Administration in Municipality)																		
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択必修	1	1,2	福祉社会科学 研究科	前期集中	他	氏名 西岡 隆(厚生労働省年金局企業年金個人年金課基金数理室長) E-mail 内線														
授業の概要	子どもからお年寄りまでが地域で安心して暮らしていくために必要な自治体の福祉行政の最新の状況を学ぶ。各施策ごとに関連する国の制度改正の動向や統計データをみて、その施策の課題を明らかにした上で、具体的な自治体(白杵市)の事例を用いて、その課題に対する解決方法を見出す。授業の参加者には、福祉行政をわがごととして捉え、自分の住む自治体、地域であれば、何が課題であり、その課題解決のために何が必要かを授業を通して一緒に考えて、さらには、人口減少と少子高齢化が進む地域において、持続可能な地域づくりとは何かを考えることを目的とする。																			
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	我が国の少子高齢化の状況と社会保障制度の課題を列挙できる																			
目標2	医療や介護などに関する統計データをみて、そこから得られる政策課題を提案できる																			
目標3	自治体が行う福祉行政のうち、最も関心が高い分野を選択し、その分野の課題解決の方法を授業で発表できる																			
目標4	事例として紹介された福祉行政について、長所・短所を判断し、自分の住む地域における取組案を提案できる																			
目標5	人口減少と少子高齢化が進む我が国の各地域において持続可能な地域づくりのために何が必要か提案できる																			
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	「少子高齢化の実態とその受け止め方、介護保険制度の動向」として、我が国の人口動向と社会保障制度の状況、介護保険制度の動向と地域ケア会議について解説																			
2	「認知症対策の最前線と成年後見制度」として、認知症を取り巻く状況を概観した上で、白杵市で取り組んでいる認知症対策と市民後見センターの取組を紹介																			
3	「これからの医療政策のめざすべき方向 在宅医療・医療ICT」として、我が国の医療政策の状況を概観した上で、うすき石仏ねっとを核とした取り組みを紹介																			
4	「地域コミュニティの再構築の方法」として、白杵市の地域振興協議会の取り組みととの活用事例を紹介																			
5	「高齢者が安心して暮らせるように」として、高齢化が進む地域における見守り、生活手段、移動手段の取組と課題を解説																			
6	「子育て支援策に求められているもの」として、我が国の少子化の状況を把握した上で、白杵市における子育て支援策の課題を解説																			
7	「生活困窮者自立支援制度」として、制度の解説をした上で、白杵市で国のモデル事業として取り組んできた経緯から今の状況までを紹介																			
8	「高齢社会の中で地域包括ケアシステムがめざすもの」として、全体を振り返り、基礎自治体としての市町村の役割について考察																			
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業の中で、自分の住む地域の状況とその地域に対する提案を発表し、意見交換を行う。各授業後、授業で得たFACTと関心を持った取り組みについてレポート作成。					工夫	その他の												
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	社会保障の諸施策を事前学習するとともに、最近の制度改正の状況などを厚生労働省HP等から調べておく(8H)。																		
	事後学修	配布した資料を振り返るとともに、自分の住む行政で行われている取り組みを確認し、さらに何が必要かを考察する(8H)。																		
教科書	適宜論文や参考資料等を配布する。																			
参考書	・西村周三監修/国立社会保障・人口問題研究所編『地域包括ケアシステム 「住み慣れた地域で老いる」社会をめざして』慶應義塾大学出版会、2013年。 ・岩淵豊『日本の医療政策 成り立ちと仕組みを学ぶ』中央法規出版、2013年。 ・権丈善一『ちょっと気になる医療と介護』勤草書房、2016年。																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	授業内の発表・ディスカッションへの参加	10%																		
	各授業後の小レポートの作成	40%																		
	最終レポートの作成	50%																		
注意事項	< 授業日程 > 2020年 9月19日 2限~5限      2020年 9月26日 2限~5限																			
備考																				
リンク	URL																			



ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																						
WW14A037		福祉社会科学演習 (Welfare Social Science Seminar )																											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																							
必修	2	2	福祉社会科学 研究科	後期	他	氏名 相澤仁ほか E-mail 内線																							
授業の概要	受講生それぞれの修士論文テーマにあわせて演習を行います。 詳細については担当教員が指示します。																												
具体的な到達目標											DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
目標1 この演習IIIの指導をふまえて、修論を期日までに完成させます。																													
目標2																													
目標3																													
目標4																													
目標5																													
目標6																													
目標7																													
目標8																													
目標9																													
目標10																													
授業の内容																													
1	相澤 仁 「児童・家庭ソーシャルワーク」に関する演習																												
2	上白木悦子 「医療ソーシャルワーク」に関する演習																												
3	三好禎之 「福祉政策」に関する演習																												
4	高島 拓哉 「福祉公共ガバナンス」に関する演習																												
5	橋本美枝子 「精神保健ソーシャルワーク」に関する演習																												
6	藤村 賢訓 「福祉法制・権利擁護」に関する演習																												
7	川村 岳人 「地域福祉政策」に関する演習																												
8																													
9																													
10																													
11																													
12																													
13																													
14																													
15																													
ラ ブ ク ニ テ ン イ グ 	A:知識の定着・確認										工 夫 そ の 他 の																		
	B:意見の表現・交換																												
	C:応用志向																												
	D:知識の活用・創造																												
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修																												
	事後 学修																												
教科書	各担当教員が演習初回に指示します。																												
参考書	各担当教員が演習時に指示します。																												
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10																	
	各担当教員が指示	100%																											
注意事項	演習IIで選択した担当教員が、原則として演習IIIも担当します。																												
備考																													
リンク																													
	URL																												